

8・9月は「飛驒をまるごと 食べんかな月間」です!

飛驒の野菜が多く出回る8・9月は「飛驒をまるごと食べんかな月間」です。地産地消推進会議では、市民の皆さんや飛驒高山を訪れる観光客の皆さんに飛驒でとれる野菜や牛乳、飛驒牛など地元のおいしい食材を味わっていただこうと、市内サポーター店舗（7月15日時点237店舗・団体）の皆さんとともに地産地消のPRに取り組んでいます。

また小・中学校でも「まるごと飛驒の日」として飛驒産食材いっぱいの給食が4回にわたり提供されます。地場産農林水産物で給食の食材を揃うことは全国的にも、とても珍しく、子供たちも飛驒の味を楽しみにしています。



市内サポーター店舗大募集

「飛驒をまるごと食べんかな月間」の期間中、この活動に賛同し、参加してくださる市内の飲食店やホテル、スーパーなどを随時募集しています。飛驒の食材を使ったメニューの提供や飛驒産野菜の特設コーナーの設置など「飛驒」の農林水産物のおいしさを一緒にPRしませんか?

申込 企画書を農務課窓口へ。企画書は農務課（本庁6階）またはHPからダウンロードできます。サポーター店舗の方にはまるごと食べんかなポスターやチラシをお送りします。

※詳細はホームページ（QRコード）をご覧ください。



地産地消推進計画はホームページで ご覧いただけます

※「農業に関する各種計画」のページ内に掲載しています。



ご利用ください! 出前講座

「高山の農業」について地域や職場、学校などに伺って説明します。お気軽にご相談ください。

問合せ 農務課 ☎ 35-3141



地産地消推進会議 からのメッセージ



会長 有 巢 正 洋 さん
(カントリーレストランアリス社長)

今年も色とりどりの飛驒の農林水産物が店頭 に並ぶ季節がまいりました。

自然に恵まれた飛驒の地では、日本一の収穫量を誇るハウレンソウや夏秋トマト、飛驒牛や牛乳、食味値の高いお米など様々なおいしい農林水産物が生産されています。

そんな飛驒の宝物を、もっと市民の方や高山を訪れる皆さまに広く知って、味わっていただきたいと平成22年に「地産地消推進会議」が設立されました。生産者・卸売業・小売店・飲食店・宿泊業・行政など36人の委員で、地産地消推進事業に今年度も取り組んでいます。

現在コロナ禍の中ではありますが、感染防止に配慮しながら、9月には地場産天然鮎を使った天ざる講座や標高1,300mの高根町の農家さんを訪ねる農家ツアーを予定しています。飛驒の農林水産物の魅力を知り、飛驒をまるごと味わいましょう。